

# 歯科外来に着任して



## 歯科外来に着任して

外来4・5階看護師長 田代 美佐子

平成28年度4月から歯科外来（外来4、5階）でお世話になっています。

昨年の1月に異動の話があり、配属先を歯科外来と告げられました。前任の村山看護師長が退職されることは周知の事実であり、その後任についてはおそらく歯科外来の経験がある方と想定していましたので、歯科外来への配属を伝えられた際は驚きと不安に包まれました。

私は、新潟大学医療技術短期大学を卒業し、新潟大学附属病院に就職後は幾つかの部署を経験しておりますが、歯科の経験はなく不安があることを看護部長に伝えると、歯科外来の看護師はスタッフそれぞれのスキルが高いので実務は安心して任せてよいこと、外来移転も終わり村山看護師長が外来の体制を整えてくれてあることを話してくれました。私も看護師長になった年に西館病棟の移転、その後異動して東病棟の移転を経験していますので、歯科外来の移転がどんなに大変だったのか、その時関わった方々のご苦勞を想像しながら、移転後の落ち着いた今の状況での配属であることに感謝しております。とは言っても何も知らない歯科外来への異動に対して不安がなくなることはありませんでした。しかし、実際に外来へ来てみると、歯科の先生方、学生さん、そしてスタッフの皆様方はとても挨拶がしっかりとできて気持ちよく働くことができますし、自分のことを受け入れてくれているという安心感もありました。挨拶は基本だということを感じましたし、接遇への教育がしっかりしていると思いました。

仕事の面では、看護スタッフは各自が自立して業務に専念しています。歯科衛生士の皆さんも親切で、分からないことが多く、教わることばかりですがいつも快く丁寧に接してくれるので本当に有難く思っています。また、私が数年前に医療安全管理部に在籍していました際に、色々な場面でお世話になった歯科の先生もいらっしゃるから、相談に乗っていただけることが心の支えとなっています。

歯科外来への異動が決まった際、先輩に、「まだ新しいことを覚えるなんて偉いね。」とプレッシャーをかけられましたが、年のせいか本当に覚えが悪くなっていてご迷惑をおかけしています。医科での処置は、学生の頃から見学や介助を行い、今何をしているか、これから何が行われるか、何が必要で何をすれば良いか、等々予測もつきましたが、歯科治療や口腔領域の処置を経験する機会は少なかったため、器材や器具の名称、その使用目的など、今でもわからないことが多く、新しいことを覚えることは先輩が言うほど簡単ではないことを痛感しています。

この原稿の依頼の中に「趣味など」という項目がありました。独身の若い頃は友人や職場の人たちと旅行に出かけたり、習い事に通ったりしていましたが、子供ができ、仕事が忙しくなってからは趣味と言える様なことは何一つしていません。通勤距離が長く朝早いことから、休みの日の朝、いつもよりゆっくり眠っていることが今は一番の楽しみと言えるかもしれません。味気ない生活ではないかと自分でも思います。せめて退職後は楽

しみを見つけて取り組みたいと考えています。退職された看護師長さん方がガーデニングや野菜作りをしているという話をお聞きすることがあります。我が家には少しですが畑がありますので退職後は何か作ってみようと思っています。

更に私的なことでは、以前子供が、学校の歯科検診で指摘を受け、近医からの紹介で、当院の口腔再建外科、矯正歯科に数年間お世話になっておりました。どの先生も丁寧で親切でありがたく思っておりました。そんな私も歯科外来に就任と同時に歯科の複数の診療科の先生方にお世話になっており、良くして頂いています。私にとって公私ともに平成28年の漢字一文字は『齒』であると思いました。

歯科外来に配属されてから会議の多さに戸惑っています。院内全体のものも含めると1日に2つ3つ入っていることもあります。しかし、色々な会議に参加することで、今歯科では何が行われているか、問題や検討課題は何か、進むべき方向は、などが少しずつ見えてくるようで、私にとってはとても役にたつ時間だと思っています。実務ではなく管理のための配置と言われて着任しました。自分の役割を認識し実行する上で良い情報収集の場と感じます。当院は特定機能病院として、質の高い医療が安全に行われることが求められていますし、医療人の教育の場としての役割も担っています。高齢化社会として種々の合併症を有する患

者への治療が必要になっています。着任前から、一般病棟の患者さんの口腔ケアの必要性や嚥下が困難な患者さんへの対応には難しさを感じていました。ここでは患者さんへの治療やケアを実践しQOLの向上に努めています。医歯学総合病院に勤務しながら歯科外来での実際や医科と歯科との連携について知らないことも多く、十分な活用ができていなかったのではないかと思います。医科に入院し治療する患者さんに対し、適切に歯科治療や口腔ケアが実施できるよう、合併症を有する患者さんの歯科治療を安全に実施するため、医療連携の強化について考えていかなければと思います。また、病院の方針としての育児支援制度から、外来看護師は一部署に長くいるということが難しくなっています。そのため教育体制を整え、新しい人たちを育成していく必要があると思います。更に今後は地域との連携も考えていかなければならないこととは思いますが、今はまだ余裕がなく、今後の課題と思っています。

若い方はご存じないかもしれませんが、昔、「芸能人は歯が命」という歯を白くする歯磨きのコマーシャルがありました。今の私にとっては、美味しいものを食べて人生を楽しむため、元気に生きるためにも「人にとって、歯は命」とつくづく感じています。多くの方が歯を大切に元気な人生を送れることを願っています。こんな私ですがこれからもよろしくお願いたします。

## 父から教わったこと

診療支援部歯科衛生部門 山田 麻衣子

私の父は観光バスの運転手で、小学生の頃の夢はバスガイドさんになって父といろいろなところへ行くことでした。この話をしたとき、父がとても嬉しそうにしていたのを今でも覚えています。

ところが、お年頃を迎えた私は夢をすっかり忘れ、歯友会歯科技術専門学校（私が入学した次の年から明倫短期大学に変わりました）の国家試験合格率・就職率ともに100%と書いてあるパンフレットにつられ、なんとなく歯科衛生士科に入学してしまいました。2年間で歯科衛生士として働けるように組み立てられたスケジュールはとても厳しいものでした。指導してくださった先生方や、私と同じ班になったしまった班長さんには大変なご苦労をおかけしてしまいました。おかげさまでなんとか歯科衛生士になることができました。楽しい仲間たちにも恵まれ、良い思い出がありません。

その頃、父は仕事で不在のことが多く、私にとって空気のような存在になっていました。父のことで知っていることといえば、職業とお酒が好きなこと、あと、母に内緒でこっそりタバコを吸っていることくらいでした。その父が9年前、肺がんでステージ4という診断を受けました。父の希望は積極的な治療はせずに『家で過ごしたい』でしたが、父の現実を受け入れられなかった私たちは、父に治療してほしいと頼みました。父は家族のために治療に踏み切る決意をしましたが、放射線も抗がん剤もさほど効果は発揮せず、結局ほとんど家で過ごすことなく半年後に他界しました。父の気持ちを優先してあげられなかったことを後悔するとともに、生前、父と関わりのあった人たちから私の知らなかった父を知ったり、遺品から破ったメモ帳に落書きみたいに書かれた私からの手紙や、父にとって思い出の品であろうガラクタが大切に保管されているのを見つたりして、最期まで家族のために生きた父の愛情

に感謝しました。

親が子にできる一番の教育は死ぬことだと聞いたことがあります。意味がよく分からなかった私も親になり、父が亡くなったことでなんとなく理解できた気がしました。ありきたりですが、結果はダメでもチャレンジすることは素晴らしいこと、お酒は楽しいこと、たくさんの人たちと関わり合うこと、良心に従って生きることなどを自分自身が実践して、精一杯生きること子ども達に伝えたいと思います。

なんとなくで歯科衛生士になりましたが、家族と一緒に働く人たちに支えられ、もうすぐ19年目を迎えます。矯正歯科クリニックに勤務したあと、老人保健施設に併設されたクリニックに勤務し、平成26年4月に新潟大学に来ました。今は外来棟4階の顎関節・インプラントのエリアで働いています。通勤に時間がかかるので出勤時間が早く、子ども達に見送られて出勤しています。子ども達の目には『お仕事がんばっているお母さん』に見えているようなので、期待にそえるようがんばりたいと思います。

